

「太鼓梁」に生かさね家を守る 入植地に植えた防風林のスギが



「太鼓梁」とは、アーチ形の太鼓橋のように、曲がりを向上きにして架けた梁だとばかり思っていたら、そうではなかった。2021年度第14回あおもり産木造住宅コンテストに、(有)岩木建設が作品名「太鼓梁のある家」で応募した加賀様邸の梁は、曲がってはいなかった。ネットで調べたら、へ皮を剥いた丸太そのままの状態から側面のみを削ぎ落とした梁とあった。伐り倒した樹齢約60年のスギを、2面おろしの太鼓梁に再生して建て替えた加賀様邸。入植したこの地に防風林のスギを植え開墾した祖父の代からの歴史が、リビングの現わしの太鼓梁に引き継がれた。

2021年度第14回あおもり産木造住宅コンテスト
審査員特別賞受賞

ユーザー訪問

加賀 様邸

DATA

七戸町作田道 2020年10月竣工

■床面積/平屋建34.18坪(約113㎡)

■使用青森県産材/ヒバ(土台、洗面脱衣室)、スギ(柱、太鼓梁、天井、下屋の梁、一部外壁)、クリ(下屋の柱、玄関上がり框)。

8mの一本物の太鼓梁
下屋の梁も同じスギで

家の北側に見える東北新幹線の線路までと、反対の南側は、牧草地の向こうの木立ちまでが加賀様の所有地だといふ。合わせて2町歩、約2000坪。加賀様の祖父と祖母が入植し、父と母が継いで荒地を耕した広大な開墾地。「作田道」の地区名には、「田を作り、道をつけ





現わしの太鼓梁ががっしりと支えるリビング

る「開拓精神が込められているのだろう。」
畑地が広がる一帯には巨大な屏風のような防風林が目につく。取材に訪れた11月初旬は小春日和であったが、荒れた日もとなると防風林があっても家が揺さぶられるほどに強風が

吹きすさぶのだそうだ。
加賀様邸の正面から、クリの柱が立ち並ぶ下屋を入れた平屋の外観を撮影していると、「あ、きた」と岩木勝志社長が指差した。視界に滑り込んできた列車は、新幹線であった。加賀様のお母様が、「今のは（走り



薪ストーブの炎を眺めながら過ごすつろぎのひとつ

が) ゆっくりだったから十和田七戸駅止まりだな」と笑った。ゆっくりのど、駅に止まらずヒュッと走り抜けるのがあって、1時間に1本の割合で通るらしい。「今のは10時30分のだ」とお母様。時計を見たら、ぴつたりだった。

——(リビングの梁を見上げて) 曲がっていなくても「太鼓梁」と呼ぶのですね。

岩木勝志社長の話 真つ直ぐに見えるけど、よく見ると少し曲がっているんですよ。このリビングの梁は5mですけど、それは見える部分だけで、実際には全長が8mあるんです。あの部分は和室や寝室の天井に隠れて見えませんがね。幅が24cm、梁せい(高さ)が36cmの、8mの一本ものです。こんな(両腕を広げて) 太い木からでないのと取れませんか。伐り倒したス



先祖が植えたスギから再生した全長8mもの太鼓梁

ギの切り株が家の脇に残っていて、直径がざっと70cmはあります。同じそのスギから、下屋のクリの柱の上の梁も取りました。それも8mあります。

加賀様の話 建て替えを具体的に考え出したのは、そのスギが発端なんです。伸び過ぎて、風が強いと倒れるんじゃないかって心配になるくらいに揺れ

に揺れてね……。今までずっと風や吹雪から家を守ってきてくれたけど、張った枝も柱みたいになって、それが強風に折れて落ちるわけですよ。その枝葉の後片づけがもうたいへんなんです。それに、太い幹の中がもしも空洞になっていて家に倒れでもしたらと考えると気が気じゃなくなってる……。そしたら、追い打ちをかけるみたいに今度はカメムシです。大量発生して、窓ガラスにくっついているのを取って入れるペットボトルがすぐに一杯になるほどだから、手に負えません。岩木さん（岩木勝志社長）に相談することになりました。家の建て替えのこと。それと、伐り倒すスギを新しい家に使えないものか。それが一昨年（2019年）でした。

——岩木社長とは面識があったのですか。

加賀様の話 私、郵便局に勤

めていました、20年ほど前には十和田地区を担当して郵便を配達していました。そのときに岩木建設の事務所にも届けていたんですが、振り返ってみれば、あのときに岩木建設との「出合い」だったんですね。今は立派な住宅展示場が建っているけど、あの当時は小ぢんまりとした事務所が建っていて、郵便はその事務所のポストに届けていました。作業場があつて、そばに丸太が積まれていて、その光景は今も変わっていませんが、あの当時からいかにも「町の工務店」という雰囲気がありましたね。

実は10数年前に一度、リフォームするにはどれくらい予算がかかるものなのか、岩木さんに見積もりをしてもらったことがあつたんです。あ

くまでも金額を把握するため
の打診でした。昔の家だから基礎といつても石の上に土台を載せただけだし、断熱材もなかったし、透き間から風は入るし寒くて震えるほどで、いずればリフォームするか、建て替えるときがくるのでしようけど、まずはリフォームするならどれくらいかかるものなのかと……。

母を雨から守る「下屋」 屋根雪で壁が傷まない

岩木社長の話 加賀様邸の床面積は34坪（約113㎡）です。



玄関正面の勝手口。開けたタタキから外に出られる

それに対して、建築面積(建物
を真上から見た面積)が52坪
(約172㎡)と、18坪(約59

㎡)も大きいのです。その分が、
建物の外壁から張り出してい
る「下屋」の面積です。まず南側
の下屋の出幅は1間半(約27
3cm)あります。建物から離れ
たところに屋根雪が落ちるよ
うに庇を深くしました。玄関の
右側の下屋も、同じく1間半
で、ここは車庫スペースです。そ
の奥に設置してある洗面台は、
加賀様のお母様が畑で収穫し
た野菜を洗う水仕事用です。雨
が降ってきても母親が濡れない
ように、という親孝行な加賀様
の配慮でした。

下屋は、建物の北側にも付い
ています。出幅は1間(約18
2cm)あり、深い庇を方杖(ほうづえ)で支
えています。建物の南と、東と、
北に下屋を架けたうえに、軒の
高さも通常より30cm高く(3m
30cm)して積雪に対応していま
す。そこまでしないと家が埋も
れてしまうほどに雪が深く、加

賀様が休日(に玄関前を除雪す
るにはトラクターでない)と追
付かないそうです。

加賀様の話 祖父と祖母が、
幼かった父を連れて満州から
引き揚げてきた——とは昔話
で聞かされたものです。入植
し、防風林として植えたとい
うスギの苗木は、私が物心つい
頃には成長して家の脇に並ん
で立っていました。子供心に残
る思い出の木ではあるものの、
20mも高く伸びれば伐り倒す
しかありません。

それを、建て替える家に使え
ないものか。祖父も祖母も、父



一枚もの上等なクリの上がり樫

も母も、私も、ずうつとスギと一
緒にここで暮らしてきました。

感謝もあるそのスギを、新しい
家に引き継ぎたい——。そう岩
木さんに相談したら、「いいで
すよ。ぜひそのスギを使つて建
てましょう」と言ってくれまし
た。相談したのは岩木建設だけ
です。他には声をかけなかった、
というより、かけるつもりはな
かったし、岩木さんならリ
フォームの相談をしたときにお
会いしているし、初めから岩木
建設に頼むつもりでした。

——岩木建設の新築現場はど
こか見学されましたか。

加賀様の話 いいえ。見学した
のは展示場だけです。見なくて
も……以前から岩木建設の評
判は耳にしていましたしね。
「地元の木を二杯使つて建てて
いる」と。いろいろわさが聞こえて
くるのは、それだけ実績がある
ということでしょう。かつて事
務所に郵便を届けていた「縁
”が実つて良かったです。

いわ木の家

有限会社 岩木建設

十和田市大字洞内字井戸頭175-1
TEL.0176-27-2906 FAX.0176-27-3259
E-mail:iwaki@sea.plala.or.jp





冬でも裸足に温かく、調湿・抗菌効果もある無垢の杉が全室の床一面に張られている

